

(2) 授業実践

実践事例 1 国語（古典 B）

指導計画

○単元名

「筒井筒」（『伊勢物語』第二十三段）

○単元の目標

- ・古典についての理解や関心を深め、人間や社会などに対して自分なりの考えを形成しようとする。（関心・意欲・態度）
- ・文章の内容や人物の心情を的確に捉えて人間や社会などに対する自らの考えを深めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。（読む能力）
- ・文法、古典常識、和歌の修辞法などの知識を身に付け、内容や人物の心情理解に役立てる。（知識・理解）

○習得した知識を活用・探究する学習過程

本文の読解とともに平安時代の婚姻制度や和歌のもつ意味について学習した後、登場人物の心情について考えさせる問いを提示することで、正しい知識・理解に基づいた論理的な思考ができるようにする。

○単元の計画

単元の前半で本文の読解と知識の習得を行う。その後、学習した知識を活用して問いについての個人の考えをもち、グループや学級全体での対話的活動を通して各自の考えを吟味することで、よりよい意見を形成する。

○本時の目標

- ・文章の内容や人物の心情を的確に捉え、共感、疑問、思索などを通して人間や社会などに対する自らの考えを深めている。【読む能力】（3 / 4 時間）
- ・古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。【読む能力】（4 / 4 時間）

○対話的活動の工夫

- ・意図的なグルーピングを行い、ファシリテーターを務める生徒を各グループに配置することで、自己の意見を表出しやすくし、円滑な意見交換ができるようにする。
- ・ワークシートの記述内容を事前に把握し、主張に偏りがないようにグルーピングすることで、グループ内で多様な考え方を知ることができるようにする。
- ・討議の前にトゥールミンの「三角ロジック」を提示し、根拠と理由を伴った論理的な主張が行えるようにする。
- ・学習用 P C を用いて発表用シートにグループの意見を記入し、電子黒板に提示して発表させることで、クラス全体で意見を共有できるようにする。
- ・発表の後に全体で意見交流を行う時間を設定することで、双方の考えがより深まるようにする。


○学習課題（問い）の設定と評価

- ・恋愛や婚姻制度という生徒が関心をもちやすい課題で、複数の意見をもつことのできる問いを設定し、主体的に対話に取り組むことができるようにする。
- ・Sue Fostaty Young 氏の提唱する「I C E モデル」の理論を用いた I C E ルーブリックを提示することで、生徒の学びが「I（Ideas / 考え・基礎知識）」、「C（Connections / つながり）」、「E（Extensions / 活用・ひろがり）」のどのレベルに達しているのかを生徒自身が客観的に把握することができるようにする。
- ・I C E ルーブリックによる評価を行うことで、個人の考えから活用のレベルまでの過程を実感し、古典学習における知識の活用とはどのようなものかを理解できるようにする。

授業の様子

3 / 4 時間

対話的活動 評価 (A…十分満足 B…おおむね満足 ★…努力を要する生徒への支援)


過程	学習活動 生徒同士のやり取り, 発表内容	教師の働き掛け (○), 評価規準 (◆)
導入	1 本時の問いを確認する。 問い 男の女に対する心情はどのようなものだったろうか	
展開	2 前時に個人で考えた意見について, グループで話し合い, 意見をまとめる。  グループの意見を教師に報告する様子 生徒 1 : 男は女に愛情をもち続けていたけど, 自分が出ていくことで, ほかの男と幸せになってほしいと考えたと思う。 教師 : 男が出て行って, 女は幸せになれるのかな? 生徒 2 : すぐにほかの男の人と結婚すれば幸せになれると思う。 教師 : 本当にそうだった? 当時の時代背景や婚姻制度を考えることがヒントになるね。 生徒 3 : 親がない女と結婚しようと思う男が現れるかな?	○「三角ロジック」を提示し, 主張・根拠・理由を意識してグループ内で討議させた。 ○ほかの生徒の意見を参考に追加・修正する場合は赤ペンで記入させた。 ○各グループの発表者を決めて話し合いをさせた。 ○各グループの話し合いの方向性を確認し, 適宜助言を行った。 ○話し合いの内容を受けて, グループでの意見をまとめ, 学習用 PC でパワーポイントのシートに記入させた。 ◆文章の内容や人物の心情を的確に捉え, 共感, 疑問, 思索などを通して考えを深めている。 【読む能力】 (ワークシート(1), 発表用シートの分析) A : 本文の叙述や当時の婚姻制度などの根拠を複合的に捉えて考えを形成し, 説明している。 B : 本文の叙述を基に考えを形成し, 説明している。 ★ : ほかの生徒の意見を参考に記述を修正するよう促す。
まとめ	3 次時の活動を確認する。	○意見がまとまっていないグループは, 次時まで意見を集めて, 発表用シートに記入しておくように促した。

授業の様子

4 / 4 時間目

対話的活動

評価 (A…十分満足 B…おおむね満足 ★…努力を要する生徒への支援)

過程	学習活動 生徒同士のやり取り, 発表内容	教師の働き掛け (○), 評価規準 (◆)
導入	1 本時の問いを確認する。 問い 男の女に対する心情はどのようなものだったろうか	
展開	2 グループでまとめた意見を発表する。  <p>グループの意見を発表する様子</p> <p>生徒 4 : 男の女に対する愛情は冷めてしまっていると考え。なぜなら「男, 異心ありて」から, 男は女のところにどんな男が来るのか見てみたかったのだと考えたから。</p> <p>生徒 5 : 男が女に関心をもっていたのなら, 愛情をもち続けていたと考えるのが適切ではないか。</p> <p>生徒 4 : その時点では冷めていて, 和歌を聞いてから女の存在の大切さに気づき, 愛情が戻ったのだと思う。</p> <p>生徒 5 : 論理に矛盾があるのではないだろうか。</p>	○グループでまとめた意見を電子黒板に提示し, 発表させた。 ○グループの発表を聞く際には, 疑問・指摘・質問などを考えながらメモを取るよう促した。 ○発表後に質疑の時間を取り, 意見を交流することでより考えが深まるようにした。
		【 C 】グループ 男は女に対して(愛情を持ち続けている)と私たちは考える。なぜなら, 本文の「男, 異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑いて」の部分を見れば分かるように, 男は女が自分の行動に何も言わないことに対し疑問を持ち, 女が他の男の所に行っているのではないかと不信感を持っています。もし, 女に対する気持ちが冷めていたらこのような疑問や不信感も抱かないと思うので, 男は女に対して愛情を持ち続けていると考えました。
		【 D 】グループ 男は女に対して(愛情が冷めてしまっている)と私たちは考える。なぜなら, 「男, 異心ありてかかるにやあらむと思ひ疑いて, 前載の中に隠れゐて, 河内へいぬる顔にて見れば」から男は女のところにどんな男が来るのか見てみたかった。また, 男は他の女のところにいったときは愛情は冷めてしまっていたけれど, 「限りなくかなしと思ひて, 河内へも行かずなりにけり。」から男は女と離れて女の存在がとても大切なものだと思つた他の女のところにいかなかったと考えたから。
		生徒が記入したグループの意見 ○発表終了後, 問いに対する主張はどちらの答えでも構わないこと, 意見は理由・根拠・主張が矛盾なく成立する論理展開でなければならないこと, 本文の読解内容だけでなく当時の時代背景や古典常識などの知識を活用して考える必要があることを伝えた。

3 話し合いの内容や各グループの意見を踏まえ、ワークシートの記入を行う。
 (1) 話し合いを受けて、個人の考えがどのように変化したかを記述する。

○ICEルーブリックを提示し、Eレベルを目指して記述するよう促した。

【ICEルーブリック】
 自分の記述内容が「I (Ideas / 考え・基礎知識)」、「C (Connections / つながり)」、「E (Extensions / 活用・ひろがり)」のどのレベルかを確認しながら書きましょう。

I (Ideas / 考え・基礎知識)	C (Connections / つながり)	E (Extensions / 活用・ひろがり)
○自分の考えを持っている。	○接続と共に、自分の考えを述べている。	○接続を基に、より客観的で妥当性の高い意見を形成している。
○平安時代の婚姻制度について理解している。	○当時の時代背景を基に、人物の行動や心情を理解している。	○平安時代と現代の恋愛・結婚に関する共通点・相違点について、本文の内容を基に自分の意見を持つことができる。

ICEルーブリック

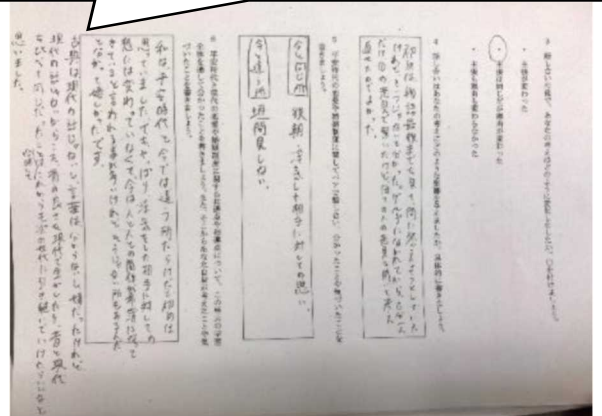
(2) 平安時代の恋愛や婚姻制度についてペアで話し合い、確認する。

○相違点が多く挙がっていたので、共通点にも着目して話し合うように促した。



ペアでの話し合いの様子

平安時代と今では違う所だけだと、初めは思っていました。(中略)昔と現代を比べて同じだったことはこれからも次の世代に引き継いでいけたらいいなと思いました。



(1)～(3)後に生徒が記入したワークシート

生徒6：男が女の家に通って、女の親が世話をするんだよね。
 生徒7：「妻問婚」っていうんだっけ。
 生徒6：そうそう。親が亡くなると生活が成り立たなくなるんだよね。

(3) 平安時代と現代の共通点や相違点について整理するとともに、本単元の学習内容が自身のものの見方・考え方にどのように影響を与えたかについて考え、記述する。

◆古典に表れた思想や感情を的確に読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。
【読む能力】
 (ワークシート(2)の分析)
 A：Eレベルの記述を行うことができています。
 B：Cレベルの記述を行うことができています。
 ★：個人の考えのレベルから変化が見られない場合は、CEレベルの判定基準を見直すよう促す。

まとめ

4 単元の振り返りをする。

○単元の目標が読解に基づいて自分自身の考えをもつことと、平安時代と現代の共通点や相違点について理解し、生徒自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることであったことを再度伝え、古典学習の意義について考えるように促した。